

フレンツ神父 札幌での黙想会 2019年7月5日～7月7日 花川修道院にて 講話2

みなさんは、マリア様を愛していますか？

これからの講話は重いテーマですので、マリア様に母として私たちのそばにいていただきましょう。ママ、マリアがそばにおられるなら、何も恐れる必要はありません。

第二次世界大戦後、世界は大きな混乱に陥りました。日本、ヨーロッパ、そして全世界は混乱の中にありました。人間の身体が傷ついたときには、愛情込めて手当てをされ、守られる必要があります。

私は日本でマスクをしている人がたくさんいるのに気づきました。彼らは病原菌や他のことからマスクをして自らを守っているのです。

しかし、私たちの魂は身体よりもずっと繊細で、マスクどころか完全な防御が必要です。

どの戦争の後もそうですが、第二次世界大戦後も世界は傷ついた霊魂と身体で満ちました。戦争というのは、人間だけの業ではなく悪魔が関与しており、人間は悪魔にあやつられているのです。戦争が終わったあと、親たちはこれからの世界は「子供達にとってもっと素晴らしい未来になって欲しい」と願いました。若者たちは「自由でありたい」と叫びました。

私の父も戦争に行きました。ナチスドイツ軍によって、小国ルクセンブルグはドイツ軍として戦わせないでなくなり、若者たちは戦場に駆り出されたのです。父はドイツに対して憎しみを持ちませんでした。大勢の人々はそうではありませんでした。

終戦後も、人々の中での戦いはまだ終わっていませんでした。多くの人たちの体や心が負傷していました。悪魔にはさらなる計画がありました。それは、毒を混ぜたカクテルを作ることです。勝利したアメリカは「麻薬、セックス、ロックンロール」と唱えました。これらが戦後の世界に混ぜられた毒です。

人々は自由を求め、権威に対して反抗しました。

ロックンロールのリズムは、男女の結ばれるときの動きなのです。エルビス・プレスリーは、舞台でははっきりとそれを示しました。彼に続く人たちはそれを模し、現在では、もっと酷いパフォーマンスが舞台上で行われています。

人間は、ある一定の痛みに達すると、自分を守るためのホルモンが出るように創られています。

ロックンロールは大音量で音楽を演奏して、聴く人にそのホルモンを出させます。そのホルモンが身体中に流れることで麻薬なしでトランス状態に陥らせるのです。

そして、そのような状態の後にコカイン、ハシシ、LSD、その他を使用します。

自由と平安を求めていた人々は、両親に対して、政府に対して、モラルに対して、教会に対して、そして、神に対して反抗するようになりました。

以前はタブーだったことがすべてまかり通るようになり、人々は、「我々は自由だ。何をしても許されるのだ」と思うようになりました。

数年前、ある方の告解を聴いて、私は非常に驚きました。

その方は、「私は、夫婦間では何をしても許されているのだ、とと思っていました」と言いました。彼らは神がお望みになる方法ではない夫婦関係をもっていたのです。

人間は、皆、愛を求め、優しさを望みます。霊魂は愛を求めて叫んでいます。それは本当のことです。しかし、その愛というのは性的交わりのことではありません。霊魂は、自分が受け入れられることを望んでいるのです。自分のことを誰かが見てくれる、気にしてくれることを、魂は求めるのです。自分のために誰かがそこにいて欲しい、と望みます。「私を利用するためでなく、ただ私の存在だけを求めてくれる人が欲しい」と思うのです。私たちの霊魂は小さな子供のようです。

小さな子供には何が必要でしょうか？ 父親、母親からの優しさ、温かみ、母乳やミルク、食物、そして細かい配慮による世話ではありませんか？

両親は自分たちの子供に対して誇りを持って世話をします。子供自身は、自分のために何をする必要もありません。

子供は、性的一致を求めて叫びません。子供は、優しさを求めるのです。

赤ちゃんや小さな子供が泣き叫ぶとき、父親や母親があやし、静かにさせる姿に、私はいつも感銘を受けます。親たちは子供を抱いて歩いたり、時には歌ったりして、寝入るまで1時間でも2時間でもあやし続けるのです。

では、大人は何を必要としているのでしょうか？ 大人にもこの優しさが必要なのです。性的交わりそのものよりも、この優しさを人は求めているのです。人間は、受け入れられたいと望むのです。

神様からいただいた恵みである夫婦間の営みと、そうでないものがあります。夫婦間で最も必要なのは優しさです。

たいていの女性が夫に望むことはなんだか知っていますか？ 夫が「こーんなに大きな耳」を持っていることです。奥さんが心の中で思っていることを全部聴いてくれる大きな耳を持っていることです。

では、たいていの男性が奥さんに一番望んでいることはなんだと思いますか？ 奥さんが「こーんなに大きな心」を持っていることです。奥さんの大きな心を枕にして、ゆったりと眠れることを望んでいるのです。

神は、私たちのこの望みを満たしたいと思われています。私たちが求めている愛が与えられることを望まれています。清い、本物の愛を私たちが受けることを、神は望まれています。

みなさんは、ご自分の霊魂が何を一番求めているか、霊魂の声を聴いてみてください。

私たちは、先日の木曜日に東京の初台教会で一日黙想会をしましたが、私は、奇跡を体験しました。大勢の人たちが、ご聖体の前で涙を流したのを見たのです。

私は、大きな聖体顕示台を手にして、一人一人を祝福しました。すると、祝福を受けた人たちのうち、たくさんの方が、泣いて、泣いて、泣いていたのです。これは、奇跡だと私は思うのですが、違いますか？

この人たちは、イエスの優しさを感じ、体験したのです。教皇フランシスコは、私たちには優しさが必要だとおっしゃいました。

悪魔は、司祭が性のテーマで話すことを望みません。

悪魔は、「司祭たちよ、おまえたちは、自分たちの教会の中で子供や青年たちに性的暴行を加えたのではないか。恥ずかしくないのか！ そんな司祭がそのテーマで話す必要はない。まず、自分たちの問題を解決するんだな」と言うのです。

ルクセンブルグでも、夏休み中にテゼに子供達を引率した司祭が性的暴行を加えた件で2、3年前に調査が始まりました。

預言者ホセアは、「知識がないために私の民は滅びる」（ホセア書4章6節）言っています。私の民は、司祭に知識がないために滅びるのです。私の民はみだらで清くないので滅びるのです。預言者ホセアは、「知識がないため」と言います。聖書における「知識」とはなんでしょう？

アダムとエバが罪を犯して神との関係を断たれたとき、彼らは楽園を出てゆかなければなりません。神はアダムとエバに三つの贈り物を与えました。ひとつ目に、アダムにエバを、エバにアダムを与えられました。二つ目に、穀物など、土地にみのりを与えられました。三つ目に神を忘れないように安息日を与えられました。

ルクセンブルグにも日曜日はあるのですが、私たちはそのことを忘れてしまっています。日本の人々は、ルクセンブルグの人々よりももっと働いていますね。

聖書には、「アダムはその妻エバを知った」（創世記4章1節）とあります。そうすると、エバはみごもりました。誰かを知ったら妊娠するのでしょうか？ 聖書の「知る」とはどういう意味なのでしょう？ 「知る」とは「目と目を合わせて男女がひとつになること」です。神様がお望みになった形で目と目を合わせるなら、鼻と鼻、口と口、胸と胸、そして男女が知り合うなら、内臓同志も互い知り合い、一体になるのです。

しかし、私は告解で他の形で男女の営みがなされることを聞くのです。口は口に合わされるのではなく、他の位置にあります。

このような交わりを持ったと告解した人に、「その時、どんな感覚をいただきましたか？」と私が尋ねると、「罪悪感を感じた」と答えました。

「では、なぜ何度も同じことをしたのですか？」と聞くと、「それが普通のことのように慣れてしまったからです。誰も、それがいけないことだとは教えてくれませんでした。両親も、学校でも、教会でも教えてくれませんでした」と言うのを聞いて、教会の一部である私も、自分にも責任があると感じました。29年間司祭職にありながら、その内容について人々に話す勇気がありませんでしたから。

そういう内容の告解をした人たちの多くは、「パートナーを失いたくないので、それを続けていました」と言います。そして、彼らはそのような行為を続けるうちに、もっとひどいことを行うようになるのです。

ほとんどの人は、「結局、本物の愛を失ってしまいました」、さらには、「神への愛を失いました」と告白しています。

そのような行為の結果として、口腔癌になったと、アメリカのある映画俳優が公にしています。

このテーマが重いことはよく知っています。しかし、神は決して人を裁かれません。

神は赦し、悪魔は告発します。みなさんは、神と悪魔のどちらを選びますか？ どちらを信じますか？ 神の方が偉大であることを信じますか？ それとも、悪魔にはあなたを押し潰し、奴隷にする権利があるのだと信じますか？

神はあらゆる物をお造りになったあと、神は「極めて良い」と言われました。
しかし、神がアダムをお造りになったとき…それは創造の御業の6日目でした…「人がひとり
いるのはよくない」とおっしゃったのです。

これは大変興味深いことです。神自らが御業を「よくない」とおっしゃったのです。そして、「彼
にふさわしい助け手を造ろう」と言われました。

神は、まるで手術台で麻酔をほどこしたかのようにアダムを深く眠らせ、肋骨から骨を一本取り、
肉で塞（ふさ）いで女を創られたのです。

神は男を土から造られましたが、女は男の肋骨からお創りになられたのです。ですから、女性の
方が男性より美しいのですね（>これはフレンツ神父のジョークです）。

アダムがエバを見たとき、「神様！ やっと私のパートナーをお造りくださいましたね」と言ったか
も知れませんね。アダムは、「これこそ私の骨からの骨、私の肉からの肉」と言いました。

学者たちは、「なぜ神はエバをアダムの頭からお造りにならなかったのか。なぜ足の骨から造ら
なかったのか」と問います。

足から造らなかったのは、女性が男性の足の下に置かれないため。頭から造らなかったのは、女
性が男性より利口になって男性の上に立つことのないため。

なぜ肋骨から造られたかという、心から愛するためです。

十字架上で何が起こりましたか？ 兵士の槍によって、脇腹が貫かれて開き、血と水が流れ出し
ました。イエスは第二のアダムであり、完全なアダムです。マリアは第二のエバであり、完全なエ
バです。イエスの脇腹から教会が生まれました。教会である私たちは、イエスの脇腹から生まれ
たわけですから、私たちは完全なのです！

聖母が十字架の下に立ち続けてくださることに感謝したいと思います。十字架の下でイエスから
全人類を委託され、受けてくださったことに感謝したいと思います。聖母のフィアットによってみ
ことばが肉となられたことに感謝したいと思います。

ちょうどお昼ですね。ここでお告げの祈りを祈りましょう。

（講話は午後続く）